

内容は1月16日午後に党本部でおこなわれた講演を、日本側の同時通訳に準拠して文字にしたものです

2007年1月16日

民主党本部

日中両党「交流協議機構」第1回会議 王家瑞中国共産党中央対外連絡部部長の基調講演

尊敬する小沢代表、菅直人代表代行、輿石東参議院議員会長、鳩山由紀夫幹事長、尊敬する王毅大使、ご在籍の皆様方、こんにちは。私は中国共産党代表团全員を代表いたしまして、日本の民主党側の温かいお招き及び今回の会議の開催に当たってのこの行き届いたご手配に感謝いたしたいと思えます。

先ほど小沢代表がおっしゃいましたように、私ども両党が「交流協議機構」をつくったということは、両党の指導者が双方の交流を深めるために非常に重要な政策的な決定をしたということでもあります。そしてまた中日関係発展の新たな情勢の中での必然でもあります。小沢一郎代表は先ほど、温かい、すばらしいご講演をなさいました。また、かくも多数の民主党の議員の方々が、お忙しい中、時間をつくってこの会議に参加してくださいました。このことから私と私の同僚は、民主党との両党・両国関係、それからこのたびの会議に対する高度の重視、そして情熱を感じることができます。

私はここで皆様方と両党・両国の関係について意見交換できることをうれしく思っております。そしてこのたびの会議が、相互理解と信頼をさらに深め、両党の交流の内容と成果をさらに豊富にし、中日善隣友好関係をさらに推進し、またそれが健全で安定した発展をするために非常に大きな役割を果たすことを信じております。

ご在席の皆様方、中日両国は隣り合った国であります。アジアの二つの大国であります。それぞれの発展というものが国際社会の広い注目を集めております。中日関係は、アジア、そして世界の中で最も重要な二国間関係のうちの一つであります。両国関係の動向は、国際世論が注目する焦点になってきております。中国は、世界における最大の発展途上国として、28年間の改革・開放を通し社会主義市場経済体制が既にほぼ確立し、全方位的な対外開放の枠組みが基本的にでき上がっております。

経済は持続的に急速な発展を遂げ、人々の生活も全体的に衣食が足りるといった状態から、ややゆとりのある状態へと、歴史的な大きな進展を見ました。そして世界との関係も

ますます深まっており、各国との協力もますますふえてきております。

同時に、私どももこのように見てとっておりますが、中国は人口が多く、基礎がまだまだ弱い。また発展もアンバランスである。そして資源・環境のプレッシャーも際立っている。人々の生活のレベルもまだ高くはありません。中国の近代建設にはまだまだ長い道のりを歩むことが必要であります。そしてさらに長期にわたる努力が必要になってきております。

このような基本的な認識に基づきまして、私どもは国内的には科学的な発展を堅持しております。そして調和のとれた社会の構築に努力しています。対外的には、平和的な発展を堅持し、そして調和のとれた世界の構築を積極的に推進しているところであります。中国の対内的・対外的な戦略は非常に明確であり、また本質的には一致するということがここからわかります。ですから、これは非常に長期的に安定したものであります。

私どもは科学的な発展を強調しておりますが、これは科学的な発展観によって社会の発展の全体を率いていこうというものであります。中国を、もともとの安い労働力、資金、天然資源、その環境への投入といったものに過度に依頼する、要するに量の拡張という発展から、労働者の資質を高め、科学的な技術進歩を図り、そして効率を高めることによる発展へと転換していく必要があります。要するに、量が多く早い成長だけではなく、よりよく節約した、また効率の高い発展を遂げるということでありまして。

社会主義の調和のとれた社会を構築することにおきましては、まずは社会全体、大きな社会から着目いたします。経済建設・政治建設・文化建設・社会建設、それから党の建設などなど、要するに内部の党、国、すべての仕事の中で、調和のとれた社会の建設を実現していきます。

また小さな社会というところにも着目してまいります。人々が最も関心を持っている、最も直接的で現実的な利益の問題にも重点を置き、社会事業の発展を進め、そして社会の公平な正義、調和のとれた文化の構築、それから社会の管理をさらに発展させ、社会の創造的な活力を高め、ともに豊かになり、そして社会建設と経済建設・政治建設・文化建設の調和のとれた発展を遂げてまいります。

私どもが強調したいのは、平和の発展の道を歩んでいくということでありまして。その目的はすなわち、世界の平和を擁護することにより自己の発展を遂げるということでありまして。そして自己の発展により世界の平和の発展を促進するということでもあります。そのことにより平和的な発展、開放的な発展、協力的な発展、調和のとれた発展を実現してまい

ります。

私どもはこう信じております。中国の発展は13億の中国の国民に資するだけでなく、アジア、それから世界各国の共通の発展にも資するものであります。中国の発展は、アジア、世界というものを切り離して考えるわけにはいきません。同時に、引き続きアジアと世界の発展のために大きな原動力を注いでまいりたいと考えております。

今回、私は中国側を代表してこのように申し上げたいと思います。中国は現在も覇権を唱えておりません。将来発展したとしても、覇権を唱えることはありません。中国は、いかなるときにも他国の利益を犠牲にして自己の発展を遂げることはいたしません。

この調和のとれた世界を建設するということは、平和的な発展の道を歩むための必然であります。そしてまた平和の発展を遂げるための重要な条件であります。私どもは以下の点を主張したいと思います。

第1に、各国はお互いに尊重し合い、共通の認識をさらに深め、お互いに仲よくし、また各国の人々が自分で社会制度、そして発展の道というものを選択する権利を保障すべきであります。そしてさまざまな国際的な事務にもかかわってまいります。そして国際関係の民主化を促進してまいります。

第2に、協力を深め、共通の発展を促進し、互恵的でwin-winの関係を打ち立てていきます。そして経済のグローバル化、科学技術の進歩の成果を共有して、世界の普遍的な繁栄を促進してまいります。

第3に、異なる文明がそれぞれ交流を深めていかなければなりません。理解を深め、相互にそれを促進し、世界の多様性を提唱し、人類文明の発展・進歩を推進してまいります。

第4に、各国は相互信頼を深め、また対話を強め、協力を強めていかなければなりません。そして人類が直面するさまざまな世界的な問題に対処していかなければなりません。平和的に国際的な紛争を解決し、世界と地域の安定・安全を図ってまいります。

ご在席の皆様方、中日関係は国交正常化以来最も困難な時期は過ぎました。そして安倍首相が訪中し、両国の指導者が共通の利益に基づいた中日の戦略的互恵関係を打ち立てることで共通の認識を得たことに象徴されるように、既にこの転換が実現し、徐々に正常な発展の道へと歩み出しております。

ここで強調したいのは、中日関係の改善と発展は、民主党を含む両国の各界の人々の共通の努力の結果であります。それは両国の人民に支持されるだけでなく、国際社会にも歓迎されるものであります。

民主党は、日本の政界で今までずっと非常に重要な政治的な力でありました。また中日友好協力を長期にわたって主張してこられました。そして中日関係の健全で安定的な発展に努力してこられました。このことについては高く賞賛するものであります。

現在、両国関係は非常によい改善、それから発展の情勢に直面しております。政治的には、両国のハイレベルな交流が再開され、強まっております。両国の政党と議会も頻りに交流してまいります。両国による歴史の共同研究も昨年末から開始されました。

経済におきましては、昨年の中日貿易の総額はよい成果を上げ、2,000億米ドルを超える勢いであります。両国の政府の関連部門は、さまざまな協力メカニズムを改善するために種々の研究を行っております。経済・貿易協力をさらに深めるための有効な道筋、それから具体的な措置を考えております。

安全の面におきましては、両国の防衛部門の責任者の交流、艦艇の相互訪問といったものも推進されております。

人的交流、文化の面では、中国文化祭が非常に熱い反響を得ております。そして高校生との交流計画も順調に推進されております。

多角的な分野におきましては、さまざまな、例えば北朝鮮の核問題などについても密接な交流が行われております。

中国の党と政府は一貫して、高度に中日関係を重視してまいりました。毛沢東、鄧小平、江沢民といったわが党の3世代にわたる指導者はすべて、中日共同声明の原則と精神の基礎の上で、戦略的な高みと長期的な視点を持って中日間の世々代々にわたる友好関係を発展させることを強調しております。胡錦濤総書記など新世代の指導者は、さらに中日両国は歴史を正視し、未来に向かって平和共存、世々代々にわたる友好、互惠協力、共同発展の偉大な目標を実現するよう呼びかけております。

仮に中日関係が困難な局面にあっても、中日関係は最も重要な二国間関係であるということを我々は一貫して認識しております。その重要性、また与える影響はその二国間の範囲にとどまるものではなく、アジア並びに世界的な意味を持つものであります。

ことは中日国交正常化35周年であり、また「中日文化・スポーツ交流年」であります。私どもは双方が両国関係改善のこの機会をつかまえて、以下に述べる幾つかの仕事をうまくやることを求めたいと思います。

まず第1に、しっかりと両国関係発展の正しい方向をつかまえて、両国関係の改善並びに発展のこのよい勢いを増強していくこと。それによって中日関係をもう逆転することが

できない発展の軌道に乗せることです。

政治の面においては、中日間の三つの政治文献の原則精神に基づきまして、ハイレベルの交流を強化し、政治的な相互信頼関係を強化することであります。

恩家宝総理はことしの春に貴国を訪問する予定であります。これは、中国の指導者が本当に久しぶりに日本を訪問することであり、その意義は重大であります。両国の各界はともに努力をして、この訪問が成功するようにすべきでありましょう。そして中日関係改善の火をより盛んにすべきであると思います。

経済・貿易の面におきましては互利互惠に基づいて、また共同発展の基礎の上で不断に両国間の経済・貿易往来、経済・技術協力を拡大し、新しい成長ポイントを養い、特にエネルギー、環境保護、省エネ、情報通信技術、金融、高速度鉄道といった分野での交流・協力を通じて両国並びに両国の人々に幸をもたらすべきでありましょう。

人文の面におきましては、継続的にいろいろなルートを通じたいろいろなレベルでのいろいろな形の人的な交流を進め、特にその中でも両国の青少年間の友好協力を進めるべきでありましょう。また双方として中日本交正常化35周年、また「中日文化・スポーツ交流年」のいろいろな行動をちゃんとやり遂げるべきでありましょう。そして両国の人民間の相互理解と友好を深めるわけであります。

第2に、歴史、台湾、東海などの重大な敏感な問題を妥当に処理し、両国関係の改善と発展がその干渉を受けることのないようにすべきでありましょう。

歴史の問題においては、ここ数年あまりにも多くの教訓が見られました。これらはすべて両国の政治家が真剣に考え、教訓をくみ取るに値するものであります。

台湾問題におきまして、陳水扁当局は台湾独立という危険な道をますます先の方まで行こうとしております。私は心から希望いたします。民主党の友人の皆様方が十分に今の情勢の厳しさを認識し、くれぐれも台湾独立といった誤った情報を発信されることのないように。また同時に、中国側とともに台湾独立といった重大な事態が生じないようにしていただきたい。そして地域と世界の平和を守っていただきたいと思っております。

東海のガス田開発の問題におきまして、中日双方は対話を堅持し、争いを置いて、共同開発、互利互惠を求めるという原則で話し合いを進め、東海を両国の互惠協力の絆にしていくべきであります。

第3に、手を携えてともに調和あるアジアを建設し、共通の利益を拡大していくことであります。今、経済のグローバル化の勢いは深く発展しておりまして、世界の生産

力のレベルは引き続き上がっております。アジアは、世界における最も活力のある地域の一つとしまして、これまでにない発展のチャンスに恵まれております。特にここ数年来、アジア地域のいろいろな協力メカニズムが発展を見ておりまして、地域の一体化のプロセスも進んでおります。関係方面の統計によれば、今アジアの一体化の程度は既に60%ぐらいに達しているということでもあります。

同時にまた見てとらなければいけないのは、アジア地域の全体の工業化の程度は、まだ比較的到低いということでもあります。経済の構成も合理的ではございません。国と国の間の発展にもアンバランスが存在しております。特に注意しなければならないのは、今この地域には多くの世界のホットな問題が存在しているだけではなく、それがさらに複雑化する趨勢を見せていること。しかも同時にエネルギーの価格が高どまり、あるいは生態環境の問題が日増しに突出している。あるいは厳しい伝染性の疾病の問題が見られるといった問題があります。

したがって、上に述べた背景をもとに、我々のコンセンサスを深めて、時代の潮流に合った、そしてまたアジア・太平洋地域の特徴に合った地域協力の考え方を打ち立てるべきでありましょう。それによって実務的な協力を深め、共同の発展を促進し、調和ある世界をつくって、世界の平和と発展により多くの貢献をすべきでありましょう。

中日両国の経済の総量はアジアの80%を占めます。貿易では60%、人口では40%を占めます。両国がこの域内のいろいろな問題において協調・協力を深めるということ。そして平和、協力並びに発展するアジアをつくるということ。これは双方の共通の使命であるだけでなく、両国並びに両国の人々の共通の利益の存在するところでもあります。

現段階について言えば、アジアの一体化を進めること、北東アジアの平和を擁護するということは、両国のこの地域における大きな共通の利益でございます。アジアの一体化を進めるという面で、中日両国はwin-win、共同发展、そして段取りを追って漸進的に進める。手をつけられるところから始める。そして開放的に世界に向かうという原則で、ASEANの地域協力における主導的な役割を重視し、また10プラス3の枠組みを重視し、あるいはアジアサミットといったマルチのメカニズムを重視して、東アジア共同体の建設を促進すべきでありましょう。

朝鮮半島の核の問題におきましては、双方は協力を強化し、それぞれの建設的な役割を十分に発揮して、朝鮮半島非核化の目的を堅持し、対話を通じて平和的に解決していく。この原則を堅持するべきであります。そして関係する各者ととも半島の平和を擁護し、

北東アジアの平和を擁護するための貢献をすべきであります。

民主党は、一貫してアジア外交を重視されてきました。そして東アジア共同体を積極的に提唱されてこられました。我々はこれを高く評するものであります。

皆様方、政党間の交流は中日関係における重要な構成部分の一つであります。異なった歴史的な時期において、両国人民間の相互理解と信頼関係を深めるために、また両国関係を改善し発展するために、積極的な役割を果たしてまいりました。政府レベルの外交の大きな補充要素となってきたわけであります。両国の政党並びに政治家のレベルでの交流の密度・広さ・深さは、ほかの国の二国間関係でもあまり見ることができないレベルに及んでおります。民主党は成立の日から、歴代の指導者は多くの政治家の支持のもとで、長期・一貫して中日友好協力事業の発展に積極的かつ重要な役割を果たされてきました。

特に小沢一郎代表は、多年にわたって両国の政治交流を強化されておいでになっただけでなく、そのために多くの努力をされ、重要な貢献をなさただけではなく、さらには両国の人々の間の友好交流と相互理解のためにも努力してこられました。そして断固として「長城計画」という友好交流事業を進められ、中国の党・政府・人民の高い評価を得ておいでになります。

非常に喜ばしいのは、多年にわたる交流とその蓄積の基礎の上で、我々両党は今日ついに定期交流協議機構をスタートさせました。これは両党の交流が新しい段階に入ったことを意味しております。新しい歴史の条件のもとで、両党の交流をよりよく、中日友好協力の大局に合わせるために、以下の点をしたいと思えます。

第1に、ハイレベルな交流を強化すること。両党のハイレベルな指導者間の相互交流という良好な勢い、あるいはまた率直に話し合う、それによってコンセンサスを広げるといったやり方を正しい方向に向けて前進させていきたいと思えます。ぜひ貴党の指導者が都合のいいときに団を率いて中国を訪問されるようお招き申し上げます。

第2に、政治的な相互信頼を強化すること。交流メカニズムを強化すること。そしてまた交流メカニズムをプラットフォームとして、両党間の政策対話を強化し、交流内容を深め、双方のマルチあるいはバイのいろいろな問題において、特に重要な問題における相互理解と信頼関係を強化してまいりたいと思えます。

第3に、交流のレベルを拡大することであります。まず、小沢先生のおっしゃった両国の国交正常化35周年を記念するために、ともに大きな交流活動を計画するということに、積極的に賛成申し上げたいと思えます。それによって「中日文化・スポーツ交流年」に一

層の花を添えたいと思います。

第2に、双方において両党の若い政治家の交流を進める計画を促進していきたい。しかも適時にこれを実施することを提案したいと思います。

最後に、私は中国側を代表いたしまして、今回の会議の円満なる成功に祝意を表したいと思います。双方の参加者が、中日関係、北東アジアの安全、中日間の貿易、また中日間の青少年、さらには文化交流といったテーマについて、幅広い意見交換、実務的な意見交換をなされますよう、そしてまた中日関係の健全かつ安定かつ持続的な発展に、より積極的かつ重要な役割を果たされるようお祈りいたします。

ありがとうございました。（拍手）